

ラボの世界

THE WORLD OF LABO

TOPIC

北米の家庭を
ちょっとのぞかせて
いただきました。

P6～7

- 01 10代とともに「だれでも、何でもいえるチームづくりを」
- 04 ラボ-4H 秋のオンライン・ミーティング
- 06 GARDNER 家の1日 アメリカの生活をちょっとご紹介
- 07 おいし〜い感謝祭のご紹介 -thanksgiving day-
- 08 言語学の世界へようこそ -タコとイカの足の数はいくつ？-
- 09 東京言語研究所 教師のためのことばセミナー①
- 10 Go Ahead! -人との出会いがくれた宝物-



おはなしの続きは みんなでつないでいこう



10代とともに



平井康晴

Hirai-Yasuharu

中学・高校では6年間陸上部に所属。三重県の高校を卒業後、希望の航空大学校に進むために「4年制大学を2年修了」後、航空大学校の入学試験に合格し、入学。航空大学校で2年4か月の訓練で基本的な操縦免許を取得。日本エアシステム（現日本航空）に入社後、約2年間の訓練を経てDC-9型機副操縦士に昇格。その後、JALで16年間副操縦士を務め、2014年にボーイング777型機機長に昇格（現職）



ラボ会員として高校生まで活動された平井さん。中学1年生のとき、ラボ国際交流参加者として、アメリカ・ミネソタ州に行かれました。高校生になって進路を考えた頃、パイロットになることを目標に決め、難関を乗り越えて、航空大学校に進み、副操縦士を16年間務められたのち、ボーイング777型機の機長になりました。ラボ活動の経験をされた平井さんがパイロットのお仕事のこと、それを通じて感じ、考えてきたことをお聞きしました。飛行機好きにはたまらないお話です。

だれでも、 何でもいえる チームづくりを

楽しめる範囲でラボ活動を続けた

私は三重県でラボ会員として11年間、活動しました。小1ではじめて「ラボくろひめキャンプ」に行ったんですが、ホームシックで……泣きました。ですが、そのあと毎年、ラボキャンプに参加することになりました。1週間くらいの長期キャンプも。いろいろな人と会って友だちになれる、そのおかげで人と仲良くなれる力がついたように思います。

まじめにラボをやっていたわけでもなく、発表会のセリフもぎりぎりだったりしました。ただ、みなさんにはぜひラボを楽しんでやってほしいです。できない部分もあるとは思いますが、楽しみながらする、ということで続けてほしい。ラボに自分の居場所があるというのはいいですね。

ラボの国際交流でたくさん経験

中1でラボ交際交流に参加し、アメリカ・ミネソタ州でホームステイをしました。英語もそんなにできませんでしたが、単語ひとつとボディランゲージをつかって一生懸命やればなんとかなるな、と思いましたし、ホームステイを通じて、「Don't hesitate!」の精神を学びました。この国際交流ではじめて飛行機に乗りました。ホストファミリーが持っていた小さな飛行機にも乗せてもらいました。これがいまの仕事につながっているのかもしれない。

そのあと、高1でアメリカ・ワシントン州からランスを受け入れていっしょにくろひめキャンプにも行きました。そしてなんと30年経って、そのランスが来日し、再会しました。いま息子が所属するラボ・パーティの「流しそうめん」などにも連れていっていっしょに楽しみました。息子同士が同学年なのもう

れしかったです。

そして、ラボ会員の息子がアメリカ・ケンタッキー州にホームステイをし、そのあと、2年前の冬なんですが、オーストラリアのトムを受け入れました。

いまの仕事へのきっかけは？

高2になって進路を決めていくとき、職業紹介の本で「パイロットになるには？」の項目を読んで、「英語をつかうし海外も行けるし楽しそう」だと思いました。ここからパイロットへの道を考えはじめました。

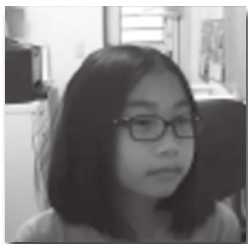
パイロットの仕事

飛行機は1機種ごとに免許がいるんです。新しい機種の免許をとると、以前に乗っていた機種には乗れません。これは安全を確保するためです。いつも同じ機種を操縦していれば間違いをしにくいですから。

航空大学校に行くためにももちろん一生懸命勉強をしました。そして航空大学校では訓練がひと区切り終わるたびに試験があって、それに2回落ちると落第するので必死でした。

私の勤めるJALでは1日約1,000便が運航されています。たくさんの路線がありますが、私が飛ぶので多いのは北米で、ほかにフランス、ロシア、中国、アイスランドなどさまざま

10代とともに



まな国に飛びました。私の今月のスケジュールは、ハワイのホノルル2回、タイのバンコク、香港、国内は福岡、という具合です。

ボーイング 777 型機

私が乗るのはボーイング 777 型機です。ジャンボジェット機に近い大きさの飛行機です。ジャンボにはエンジンが4つありましたが、太平洋を越えてアメリカに行く長距離のときなどはエンジンがたくさんある機材（飛行機）が運航されていたんです。いまは777はエンジンが2つです。技術の進歩もあり、2つのエンジンでの運航が可能となりました。

飛行機が出発するまでの流れ

まず、決められた時刻に会社へ出社します。私は羽田空港が多いです。メールボックスを見て仕事の連絡を確認します。それから、副操縦士に会って、「よろしくお願いします」とあいさつします。機長も副操縦士もたくさんいますから初対面の人も少なくないです。そしてまずは飛行計画の確認をします。それから飛行機の安全確認。どの航路を通るかの確認。天候はどうか。曇りなのか雨なのか、風はどのくらいかなどもだいたいな情報です。

それから飛行する高度の確認をし、細かいことかというと、空港の工事はやっているのかどうか、どんな工事かなども聞きます。それと、荷物や燃料をどれだけ積むかによって重さが変わりますし、バランスがとれるような積み方のことを確認します。先ほど天候の確認といいましたが、目的地の天気が悪いと旋回したり、場合によっては引き返したりすることもおかしくないとはいけません。そのようなときは多めに燃料を積むので飛行機が重くなります。

それから整備士に整備箇所を聞き、自分の目でも確認します。そして客室乗務員ともミーティングをして飛行計画を確認します。いよいよ飛ぶことになると、管制官と交信します。動いていいか、離陸していいか、など

すべて許可を得なければなりません。

動くとき、飛行機はバックできないので、専用の車両に押してもらいます。飛行機が動き始めるこのときが、「出発時刻」です。離陸時はエンジン全開なので緊張しますが、お客さまが安心してお過ごしいただけるように細心の注意をはらいます。

飛行中のこと

カーナビの画面のようなものを見ながら飛ぶのですが、その画面で雲はおだやかなものから積乱雲くらいまでに、緑、黄色、赤……と色が違って表示されます。もちろん積乱雲は避けます。

道路に「国道○号」などと名前がついているのと同じで、航空路もぜんぶ名前が決まっています。アルファベット5文字で、たとえば、PLUTO、DAMBO、BIJIN、ANPAN、PANCHなんていうのもあるんですよ。飛行機は航路を好き勝手に変えられませんから、すべて事前に許可を得ています。

パイロットや飛行機のあれこれ(クイズ形式)

Q1.パイロットのバッグ(フライトバッグ)にはなにが入っていると思いますか？

パイロットの免許証、パスポート、フライトログブック、航空路の手帳(以前は分厚いものでしたが、いまはタブレットで軽くて便利)、手袋、サングラスなどが入っています。

Q2.ボーイング 777 型機の離陸速度は？

外国の遠い空港に行くときなど、燃料をたくさん積んで重いと……時速 330km くらい出さないとうまく離陸できません。離陸した後すぐに時速 500km くらいまで加速します。

Q4.飛行速度は？

上空はだいたい時速 850km です。これくらい速くなると、温度によって速度が変わります。温度が高いと速くなるんです。それから向かい風か追い風かによっても対地速度は 300km くらい違ったりします。

Q5.飛行機で使う燃料は？

燃料は長い時間飛べばそれだけ使っていきます。ニューヨーク行きだと 11 時間、帰りは 13 時間くらいかかります。風の向きが違いますので。積む燃料は重さでいえば 100 トン。130,000 リットル……ものすごい量ですね。

Q6.翼の中にはなにか入ってる？

燃料が入っています。揚力で持ち上げられる部分なので重いものを入れられます。ボーイング 777 型機ですと、171,200 リットル入ります。

Q7.飛行機の外側の板はどのくらいの厚さ？

飛行機の板は……なんと 1 mm ! 骨組みはがんじょうですが意外と薄いんです。そしてある程度柔らかくて折れないんです。

トラブルはどんなことが？

鳥が当たることがありますね。空港で鳥の群れがいたら、空砲を撃ってよけてもらうこともあります。雷が当たることもあるんですが、これは安全上、問題ありません。

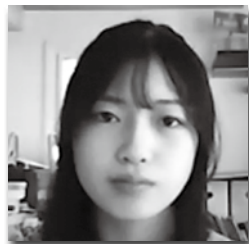
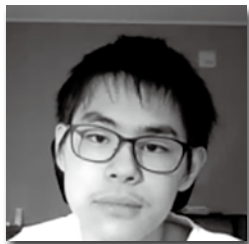
管制塔との英語のやりとり

管制官とのやりとりでつかえる、世界共通の言語は英語です。英語の免許が必要で、つねに英語は勉強しています。でも、航空用語は間違えないように決まっていたい方をします。たとえば、"Maintain flight level" (高度をそのまま保って) とか、"Decend and maintain" (高度を下げたらそのまま高度は保って) などです。数字は間違えないように、3 を Tree、9 は Niner といいます。ラボのみなさんはラボ・ライブラリーを聴くだけでも英語力がつくと思います。またラボ活動で英語へのハードルも下がりますね。

チームワークがいのち

飛んでいるときも、副操縦士、客室乗務員

10代とともに



など、いろいろなスタッフがいます。私がだ
いじにしているのは、「相手がいいたいこと
をいえる環境が整っているかどうか」です。
「間違っていないですか、それ?」といえるよ
うなふんいきにしたいのです。いつも「確認
するのは Welcome! これどうでしたっけ?
など、どんどんいってください」といってい
ます。「そんなことも知らないのか!」とい
うふんいきにはしません。

初対面の副操縦士とむずかしい仕事ができ

るのは、マニュアルがあるからです。それを
しっかりと把握していれば、だれとでも安全
に飛べます。また、小さなことで改善すべ
き点があったら「みんなで共有する環境づく
り」がたいせつです。

10代の若者にむけて

「自分で決める」ということがだいじだ
と思います。中学生でも、高校生でも、自分で
決めて実行すること。でも、おとなに反発し

たほうがいい、という意味ではありません。
勉強にしても「やらされている」より、「や
りたい」と思ってやる、ラボも「楽しいから
やる」ほうがいいからです。

(文責 編集部)

インタビューを終えて

[取材協力]

中川潤子P, 井本悦子P, 野村邦子P,
佐藤由美子P, 中嶋万織P, 川口久美子P,
久保智子P, 滝澤友紀P



佐藤由美子パーティ

●インタビューを通して、ラボ
で学んだことはいろいろな職業
で生かせると思った。職業に就
いた人はそのことについて深め
ているんだとも思った。(井ノ口
遼/中3)

野村邦子パーティ

●ラボのことだけでなく、仕事
でチームワークをよくするため
にしていることなどを話してい
ただき、ありがとうございました。
おとなにいわれたから行動
する、というのではなく、「自分
で理解して、自分で決断して」
行動するということを意識して
いきたいと思いました。(野々川
大輝/高1)

中嶋万織パーティ

●はじめてパイロットの方とお
話をして飛行機のことやパイ

ロットはどんな仕事なのかをく
わしく教えていただきました。
私はまだ国際交流に行ったこと
がなく、国際交流についていろ
いろ知れたかったので、それも
聞けてよかったです。英語力は
かならずおとなになっても必要
ということ、パイロットの仕事
にも英語力は必要ということも
知りました。なので、私はこれ
からもラボをがんばろうと思
いました。いい機会だったなと
思います。(佐柳美有/中1) ●
パイロットの方の話を聞けるこ
とはめったにないのでとても楽
しかったです。話のなかでいち
ばん驚いたのは操縦室の中がめ
ちゃくちゃ複雑だったことです。
なんとなくむずかしそうだなと
は思っていたけどあそこまでと
は思っていませんでした。操縦

するボタンなどを、動かされる
物の形と同じにするくふうはお
もしろいと思いました。そし
て国際交流で話すのに困ったと
き、単語だけでもホストファ
ミリーに伝えることやジェス
チャーで会話しようとするこ
とは自分と同じで共感しました。
やっぱりこのふたつはとてもだ
いじなんだと実感しました。自
分もこれをやってみてうまく会
話できたのでたいせつだと思
います。パイロットはとてもたい
へんな仕事だと今回で知ること
ができました。自分もいろい
ろがんばらなきゃなと影響を受け
ました。今回この場に参加でき
てよかったです。(佐柳春樹/高
2)

川口久美子パーティ

●自分が飛行機に乗ってもパイ

ロットの方の考えや思いまで考
えたことがなかった。「空の道」
があることや天候によっては道
を少しずれて飛ぶことが興味深
かった。自分が文系か理系かを
決めるとき、将来なにになりた
いのかを自分で考えて決められ
たいいいと思った。(林 あすか/
中3)

滝澤友紀パーティ

●ラボだけでなく、飛行機やお
仕事の話も聞けて、少しくわ
しなれたような気がしてうれ
しかったです。ラボをやっていた
からそのお話も聞けてとても
勉強になりました。私も平井さ
んのようにたくさんのところへ
行って、世の中で活躍できるよ
うな人になりたいと思いました。

藤田里乃(高1)

[取材日] 2021年10月

ラボ-4H 秋のオンライン ミーティング

この2年、残念ながら国際交流は実施できませんでしたが、日本と北米の双方で2022年にはぜひ実現しようと準備を進めています。11月3日にラボ国際交流の最大の交流団体であるアメリカ4Hクラブの40名ほどのコーディネーターが参加するオンライン・ミーティングが行われ、来年の国際交流について意見交換をしました。この集まりで太田園美チューター（東京都）が、中1・中2オンライン交流に参加したラボっ子の自己紹介ビデオや、ラボ国際交流を経験して現在はアメリカの大学生になったラボっ子のレポートを紹介。また、ご自身のラボ国際交流参加者としてのアメリカでの体験、その後の受入れ体験についてもレポートされ、たいへん好評を博しました。今回は、その太田チューターが話された内容の一部をご紹介します。



太田チューター Speech 一部紹介

Thank you for all of your support with the exchange program. We truly appreciate all your help preparing orientations, looking after the Labo delegates while they are in America and, of course, finding them such beautiful host families. Our long-term exchange has been so important for positive youth development.

I would like you all to watch this video by Naoki, one of the Labo delegates who experienced an exchange.



ナオキくんの13歳でのホームステイ



現在、オハイオ州の大学に通うナオキくん

←ナオキくん

ナオキくんのスピーチの動画はここから見られます↓



password labolabo

ナオキくんの英語スピーチの要約

ぼくは2歳から大学生になるまでラボ活動をしていました。ラボ国際交流に参加した人たちから経験談を聞いてとても楽しみにしていたぼくは、13歳でラボ国際交流に参加しました。ホストたちがぼくと同じく野球が好きだったのでそれも楽しみでした。でも、はじめて親元をはなれて暮らす不安と銃社会に対する不安もありました。

実際にはステイはとても楽しく、たくさんの人との出会いもありました。そしてバンバンものをいい合うカルチャーにショックも受けました。こういう体験を13歳でできたのはとてもよかったですし、もっと異文化を知りたいと思いました。そして3年後に高校留学でホストの家に戻ってきました。それからいまは、オハイオ州立大学でメディカルエンジニアの勉強をしています。

これからラボ国際交流に参加する人たちにいたいのはこんなことです。

「失敗を恐れるな」「世界を広げよう」「地球はひとつ、人間は同じ！」

そしてネルソン・マンデラのことばをお伝えします。「相手の知っていることばで話しかければ、それは相手の頭に届く。相手のもっていることばで話しかければ、それは相手の心に届く」

Through this exchange program, many Labo members build lifelong international friendships.

Let me tell you a bit about me: I went to Minnesota in the summer of 1975 on this exchange program. At that time, I wanted to experience a different culture.

My host family, the Larsons, were corn farmers, and it was harvest season. My host father would be in the cornfields at 6 o'clock. The 3 boys of 9, 10, and 11 would pile into a truck and head over to the fields as well, with the eldest Spencer Jr. at the wheel and his brothers handling the gas and side mirror! My host mother, my host sister Brenda, my younger host sister and I would look after the garden, take care of the family's 10 pigs, deliver lunch, and prepare dinner. After dinner, we would play baseball in the garden. For the Larson family, this was a daily routine, but for me, there were many new discoveries:

1. You weren't supposed to close the bathroom door when it wasn't in use (In Japan, it is always closed).
2. No matter how hard I tried to harvest them all, there would be big cucumbers waiting for me the next morning.
3. You could play baseball even at 8 at night because it was still bright out (in Japan, it would be dark by then even in summer)
4. When I went to a restaurant, huge chips surrounded my gigantic hamburger. (At that time, you couldn't find hamburgers on a restaurant menu in Japan, and potato chips were only eaten as a snack, not during a meal.)
5. When I was homesick, my host mother gave me a big hug. (As a teenager, my Japanese mother would listen if I was upset but not hug me.)

I felt a lot of emotion as I discovered the similarities and learned to appreciate the differences. Every moment of my time in Minnesota is an unforgettable memory for me.

I think this experience, building a relationship of trust with people by making decisions on my own, advancing my own goals, was the wind at my back as I challenged all things in life. I want many Labo kids to have the same chance I had; to build lifelong friendships with people abroad.

These last two years, many Japanese children have wanted to participate in this exchange program. They continue to prepare for their experience, some in ways only doable in a year like this (準備しているラボっ子たちの動画を紹介) .

In 1977, I hosted a 16-year-old girl named Carrie from Idaho. Carrie was a cheerleader and taught me how to cheer in the park. I remember how happy she looked practicing together, we kept doing it many times after that. She loved window shopping and Saturday Night Fever, so we would hang out in Harajuku twice a week, chatting as we walked around. We also watched the movie 5 times.

Carrie always wore a tank top and short shorts with ankle socks and sneakers. She encouraged me to try it out, and we ended up going to Harajuku together in the same fashion. Leaving my house and sitting on the train, I remember feeling so embarrassed, but eventually, I got used to it. As I went around with Carrie doing the things she wanted to do, I found us getting closer. The last time we walked around together in Harajuku, I felt that we had truly become sisters.

I would like to support our youth in the first step in their journey, helping them to participate in an international exchange. All of them really wish to see the new world and learn about different cultures. As Labo Tutors, we would like to help them with their challenges. Hopefully, next year our current situation will be behind us, and we will experience a whole new world together.

Thank you.

プレゼンテーション中, チャットに「すばらしい! (awesome!)」の書き込みを多数ありました。以下, 感想です。

- Hello Labo Team! Thank you so much for your wonderful presentation you have put together! The personal messages and presentations were touching and inspiring. I know your messages reached the heart of our coordinators.
- It was a great insight into Japan and Labo. THANK YOU SO MUCH! It was wonderful!



GARDNER家の一日

今年はラボ国際交流プログラムで訪問プログラムはありませんでしたが、いま、たとえばアメリカの人たちはどんなふうに過ごしているのでしょうか？ 今回はアメリカのユタ州に住むガードナーさん一家の最近の生活を教えてもらいました。2年くらいしたらラボの受入れをしたいんだそうです。（ダディとママ、そして小学生の男の子3人の5人家族です）

A day in the life of the Gardners in UTAH U.S.A.

5:30 am Dad wakes up and gets ready for the day.
He eats breakfast, makes his lunch for the day,
then studies and reads.

6:15 am Dad leaves for work.

6:00 am Mom wakes up and exercises.

6:30 am Boys wake up and make their own
breakfast(usually cereal or eggs).



仕事先のダディ (building houses)



朝食は自分たちで



仕事先のママ (accountant)

7:00 am Mom and boys get ready for the day and do some chores.

8:00 am Mom takes boys to school and then Mom goes to work.



3:30 pm Mom picks boys up from school and goes home.

4:00 pm Mom and boys read for 20 minutes
and do boys' homework.



おうちの庭

4:30-6:00 pm Boys play, Mom cleans and gets dinner ready,
and Dad comes home.

6:00 pm We eat dinner. After we clean up dinner,
we might play games, watch a movie, or play with
friends.



8:00 pm Boys shower and get ready for bed.

8:30 pm We say family prayer and boys go to bed.
Mom and Dad stay up watching TV
or doing chores around the house.

10:00 pm Mom and Dad go to bed.

おいし〜い感謝祭のご紹介 Thanksgiving day

感謝祭 (Thanksgiving day) の歌といえば, “Over the River and Through the Wood” (現在, 森のことは woods という人が多いようです) が有名です。

「感謝祭にはおばあちゃんとこに行くんだ!」という喜びにあふれた歌です。この歌詞をかいたのは18世紀はじめのアメリカ・ニューイングランド地方の人。いまより寒い時代で, 感謝祭の頃はどっさり雪が積もっていたそうです。寒いなか, そりで急いでいく先には大好きなおばあちゃんのプリンやパンプキンパイが待っている, というウキウキ気分いっぱいの歌ですが, 現代の人たちの感謝祭の食べ物はどんなものなのでしょうか。カナダのファミリーに紹介してもらいます。

Dolhun ファミリー (カナダ・オンタリオ州)

Q: いつ?

カナダの「Thanksgiving」は10月の第2月曜日なので, 今年は10月11日にしました。

Q: Thanksgiving の楽しみはなんですか?

食べ物に感謝してたくさんおいしい物が食べられること, 健康でいられることに感謝して家族でいっしょに過ごせることです。



ほかの家族のテーブルもご紹介!

LaCava family in the USA



Reimer family in Canada



Yingling family in the USA



東京言語研究所リポート 言語学の世界へようこそ！

タコとイカの 足の数は同じ？

～言語でわかる単語のくくり～



酒井智宏（さかい・ともひろ）

早稲田大学文学学術院教授（専門言語学）。2003年東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了，博士（学術）。2004年パリ第8大学大学院言語学専攻博士課程修了，Docteur en Sciences du Langage。主要著作として『正しく書いて読むための英文法用語事典』（分担執筆／朝倉書店，2019），『最新理論言語学用語事典』（分担執筆／朝倉書店，2017），『理論言語学史』（分担執筆／開拓社，2017）。

みなさんはイカとタコの見分けがつくでしょうか。つきますね。足の数の違いをご存じの方も多いでしょう。ところが，たとえばドイツでは，イカとタコを見分けられる人はほとんどいません。独和辞典にはタコとイカを別の単語として載せているものもありますが，どうやらこれは正しくなく，どちらも Tintenfisch（ティンテンフィッシュ，「墨の魚」）というようです（『しくみが身につく中級ドイツ語作文』清野智昭著／白水社，pp.168-169）。「足の数の違い」と書きましたが，ヨーロッパでは「腕」というのがふつうです。それと，イカの足は10本といわれますが，じつはイカの腕はタコと同じ8本で，それとは別に2本の触腕をもっているため，計10本となります。

蝶と蛾の区別はどうでしょうか。区別する自信がないという方でも，なんとなく蝶は美しいが蛾はそうでもないといったイメージをもつかもかもしれません。英語で蝶は butterfly，蛾は moth だということをご存じの方もいるでしょう。フィリップ・ハウスの "Seeing Butterflies: New Perspectives on Colour, Patterns & Mimicry" の邦訳は『なぜ蝶は美しいのか』というタイトルになっています（X-knowledes，2015）。

ところが，ドイツ語では蝶と蛾を区別せず，どちらも Schmetterling（シュメッターリング，複数形は Schmetterlinge シュメッターリング）または，Falter（ファルター，単複同形）といいます。ドイツ人フリードリヒ・シュナックの本『蝶の生活』（岡田朝雄訳／岩波文庫，1993）の原題は "Das Leben der Schmetterlinge"（シュメッターリングの生活）で，蝶と蛾が区別なく扱われています。蝶と蛾を区別しないのはフランス語も同じで，どちらも papillon（パピヨン）といいます（『日本語と外国語』鈴木孝夫著／岩波新書，pp.49-55）。フランス人のギー・マトーが著した『蝶』（和田祐一訳／文庫クセジュ，1960）の原題は，"Les Papillons" で，やはり蝶と蛾が等しく扱

われています。

アブラゼミとミンミンゼミの区別はどうでしょうか。茶色の羽をもつのがアブラゼミで，透明な羽がミンミンゼミです（これがミンミンゼミとクマゼミの区別になると，どちらも羽が透明なのでことばで説明するのはたいへんです）。セミを怖がる方もいるようですが，セミは噛んだり刺したりしないので，ベランダに遊びに来ても怖がらなくてだいじょうぶです。歯がないのはもちろん，そもそも（ふつうの意味での）口がありません。さて，仏和辞典で cigale という単語を引くと，「セミ」と書かれています。この単語は，ラ・フォンテーヌの寓話 "La cigale et la fourmi"（セミとアリ）のタイトルにつかわれています。ところがなんと，この作品中に登場する cigale はハエやミズを食べて暮らしています。歯がないはずなのに！

「蝶は美しいが蛾はそうでもない」をドイツ語に訳すとどうなるでしょうか。何の変哲もない日本語ですが，ドイツ語に訳すのはひと苦労で，仮に訳せたとしても，元の日本語のもつ「何の変哲もなさ」は失われてしまうことでしょうか。逆に，ドイツ語の「私は Schmetterling が好きだ」にあたる文 (Ich mag Schmetterlinge.) を日本語に訳すとどうなるでしょうか。これを「私は鱗翅類（りんしるい）が好きだ」と訳したのは，元のドイツ語のもつ「何の変哲もなさ」は失われてしまいます。

どの言語にも「これくらいは知っていて当たり前，区別できて当たりの単語・概念」とそれほどでもない単語・概念の区別があり，それが言語によってかなりばらつくようです。ラ・フォンテーヌはセミとキリギリスの区別がつかなかったようで，「セミとアリ」というタイトルの作品で「アリとキリギリス」を描いてしまったのです。その一方で，ドイツ人やフランス人は日々，鱗翅類という概念をつかいてこなしています。

東京言語研究所 教師のためのことばセミナー①

ことばへの気づき と言語教育

東京言語研究所では、10月17日に「教師のためのことばセミナー」第1講「ことばへの気づきと言語教育」を開催しました。このセミナーで「言語教育」と呼ぶのは、母語教育（日本の学校教育で「国語（科）教育」と呼ばれているもの）と外国語教育の両者が有機的に連携された、ことばに関する教育を指します。では、第1講の内容をご紹介します。



©Naomi Muto

大津由紀雄（おおつ・ゆきお）

慶應義塾大学名誉教授、関西大学客員教授。文部科学省「言語力育成協力者会議」、「英語教育の在り方に関する有識者会議」のメンバー。言語教育関係の著書に『ことばの力を育む』（窪田晴夫との共著／慶應義塾大学出版会、2008年）、『日本語からはじめる小学校英語—ことばの力を育むためのマニュアル』（浦谷淳子・齋藤菊枝との共編著／開拓社、2019年）など。

◎ことばへの気づき

日本語の話者は、日本語を知っていますが、日本語について知っているとは限りません。自己紹介の冒頭で「私が大津と申します」というと、なにか変ですね。「私は大津と申します」か、単に「大津と申します」が自然です。そのように感じられるのは日本語を知っているからです。しかし、なぜそうなのかを説明せよと言われても、できない人も多いでしょう。それは日本語について知らないからです。

日本語について知るためのきっかけとなり得るのが、「あれ?」「おや?」などという「気づき」です。これを「ことばへの気づき」と呼びます。たとえば、「若い男と、女」というのと、「若い、男と女」というのでは、意味が違ってきますね。あるいは、「こわい目の（ ）」の（ ）の中に、「先生」や「お父さん」を入れたとき、「病氣」と入れたときではなにか違いますね。また、「時計をお持ちですか?」と聞かれたとき、ある状況では時間を聞かれていると解釈されるし、別の状況では時計を所有しているかを聞かれていると解釈されますね。これらの例は、すべて、「ことばへの気づき」につながる可能性をもっています。

◎子どもも文のおかしさがわかる

アメリカの言語心理学者のグライマン夫妻とシッブリー氏が1972年に発表した論文"The emergence of the child as grammarian"では、7歳児が彼女の母語である英語についてのさまざまなコメントが報告されています。たとえば、My sister plays golf. はおかしくないが、Golf plays my sister. というとおかしいと言います。さらに、「なぜか?」と聞くと、後者はゴルフが立ちあがって、ゴルフクラブを手にして、妹を打つという、わけのわからない意味になるからだと言っています。金城学院大学の原田かつ子氏が4歳児から11歳児を対象にした調査で日本語について同様の報告をしています。

◎発達による気づきの段階

谷川俊太郎さんの「かっぱ」という詩を聞いたとき、子どもたちはどんな感想を述べるかを調べました。

かっぱかっぱらった

かっぱらっぱかっぱらった

とってちってた

かっぱなっぱかった

かっぱなっぱいっぱかった

かってきってくった

3歳児はおもしろがりますが、なぜおもしろいと感じたかを説明できません。5歳児になると『かっぱ』がいっぱいいるからおもしろいと言えたりします。文字を習った7歳児は、「小さい『っ』がたくさんあるから」と言ったりします。13歳児になると、『っ』のくり返しが多いからです。『かっぱが笛を盗んだ』といってもおもしろくありません」と、おもしろさが音声的なもので、意味的なものではないことを指摘できるようになります。このように「ことばへの気づきの深さ」というのはさまざまで、「感じる」「気づく」「意識する」「操作する」という段階があります。

◎言語力の危機の本質

「ことばを操る力が育まれていない」という声をよく耳にします。この力が十分に育まれていないと論理的展開を読みとったり、論理的展開をもった文章を書いたりすることができません。英語についても、I want to be...などの定形表現を覚えるだけではことばを操る力はつきません。さらに、高等学校の新しい学習指導要領では「文学国語」と「論理国語」という教科が導入されましたが、本来、文学と論理は対立するものではありません。この状況から脱出し、子どもたちのことばの力を育むためには、学校教育でも「ことばへの気づき」を促し、「ことばを操る力」を育成する。そのためには、母語教育と外国語教育の一体化をすることが肝要です。

（文責：編集部）



カークマン直美
幼稚園教諭

人との出会いがくれた宝物

2歳で始めたラボ活動。母が国際交流に行った友人にあこがれ、「娘に同じ経験を」と思ってくれたのがきっかけでしたが、中学時代は部活動に励み、ラボ活動にまじめとはいえず、楽しいけれど前日に急いで英日の物語CDを聴いたり、セリフはなかなか覚えず、ということもありました。国際交流も「笑っておけばなんとかなる」と考えていました。

高1でステイしたのはアメリカのオレゴン州。ホストはひとつ年上の16歳。シャイで思春期だった彼女はまったく話さず、私も英語でなにを話したらいいか……沈黙が続き「笑う」こともできない初日でした。



3日目にホストの仕事のベビーシッターに行くと、子ども好きな私はジェスチャーや単語を使っていしょに遊べた瞬間、ことばが通じなくても思いを伝えることがだいじだと気づきました。以降、ホストと話ができ、仲良くなれました。彼女が仕事をし、車も運転する姿をみて、自分も変わりたいと感じました。

帰国後はラボをより深めたくて積極的になり、シニアメイト活動をして全国に友だちをつくる楽しさを知り、大学生活動もしました。人との出会いは大きな財産となりました。

「なにを目的に企画するか」「なにを伝えたいか」「自分は何のために生きているか」……おかげさなことばですが、仲間と活動するなかでよく話しました。考えること、自分と向きあうことを教えてくれた仲間やチューターに感謝しています。

幼稚園教諭の仕事はただ遊ぶこと

ではなく、子どもにとってどんな育ちが必要かを日々考え、適切な環境を用意し、その子に合ったことばがけ、保護者もふくめて援助していくのが重要です。一人ひとり違う表情や言動から、必要な対応を瞬時に判断しますが、「相手の目線に立とう」と意識せずともしげんにできるのは、ラボでの経験が積み重なっているからだと思います。考える習慣は、毎日の活動を練ったり、どんなに小さな遊びでも、目的をもって子どもと接する際に活かされています。

ラボで年下の子と接する機会が多かったことで、めざした幼稚園教諭。誇りをもって大好きといえる仕事です。私の人生を語る上でラボは欠かせないものです。

カーくまんなおみ＝学校法人 菅原学園 江戸川双葉幼稚園
(千葉県・西川信子パーティ OG)

Information

東京言語研究所

■公開講座

日程：2022年2月19日④

時間：14:00-17:00

講師：池上高志（東京大学）

演題：未定（11月末決定）

■集中講義

日程：2022年3月12日④、13日⑤

講師：野矢茂樹（立正大学）

演題：ウィットゲンシュタインの言語観

■理論言語学講座

5月開講（オンライン講義）

要項：2022年2月上旬、当研究所ウェブサイトに掲載予定

申込開始：2022年4月1日⑤から

Access <https://www.tokyo-gengo.gr.jp/>

ラボ日本語教育研修所

■外国人のための日本語教育

日程：2022年1月11日④～

3月18日⑤

受講者：モンゴル、ベトナム、中国、韓国、アゼルバイジャン、バングラデシュからの留学生

■第17回全養協日本語教師検定

日程：2022年2月20日⑤

対象：日本語教師およびその志望者
内容：日本語教育にかかわる実践的知識および能力を測る試験

主催：一般社団法人全国日本語教師養成協議会

会場：全国各地

※くわしくはFacebookをご覧ください

Access [http://www.facebook.com/](http://www.facebook.com/LaboJapaneseLanguageInstitute)

LaboJapaneseLanguageInstitute